

中国吉林省延辺州の産業開発に関する調査研究

—農林業から観光業への山林資源利用遷移に伴う事業創造環境変化を中心として—

岸田 伸幸¹

要 旨

豊かな山林資源を有する中国吉林省は日本海航路開発で新潟との経済交流発展が期待される。本研究では円滑で互恵的な関係発展に資する為、交流協定校延辺大学が所在する延辺朝鮮族自治州に着眼し、同地特有な山林資源産業利用の現状と将来的開発動向を解明するため、延辺大学所在の延吉市で2016年9月に約2週間の滞在調査研究を行った。延大教員・院生らとの情報交換、延大図書館、大学出版社書店、州立図書館の文献調査、市内商業集積や文化施設の視察などを行い、また、近隣安図県、敦化市を視察した。更に、2017年9月に延吉市を再訪して前年の調査対象を再調査した。その結果、野生動植物採取は管理され、持続可能モデルに移行していること、山林資源を活かした観光業が伸び盛りで学術研究が支援を図っていること、都市型商業活動が活況なこと、山林資源と電子商取引の新結合による創業促進施設の存在が判明した。これら成果を今後の共同研究等に活用したい。

キーワード

延辺、日本、山林資源、観光産業、創業支援

1 はじめに

地域での事業創造を通じ国民経済を活性化し、もって世界人類の福利増進に貢献しようとする本学の理念を実践するため、国際的な協力・連携活動は重要である。今や在学生の半数を数える留学生を多くの国々から迎え事業創造研究を進めるにあたり、我が国の強みで彼の国の不足を支え、彼の国の余剰で我が国の弱みを補う、戦略的win-win関係を適切に形成することが望ましい。それ故、2017年末現在13ヵ国36校に達する交流協定校と学術・研究を共同推進し、相互の産業資源や事業機会の理解を深めることが重要と考える。

この見地から、著者は交流協定校延辺大学の協力の下に中国吉林省延辺朝鮮族自治州中部で同地産業資源に関し2016年9月および2017年9月に計約3週間の滞在調査を行った。同研究成果を中心に本稿をまとめる。本研究を同地で実施した理由は以下のとおりである。

¹ 事業創造大学院大学 教授

1.1 同地の経済地理的特性

延辺州は中国東北区吉林省が東北側ロシア領と東南側北朝鮮領とに三角形に食い込んだ内陸部にある。戦前の偽満州国期には州内の敦化市に王子製紙系製紙工場が置かれるなど、日本では森林資源が豊かな地域として知られてきた。現代中国では、こうした内陸部の経済を、ロシア乃至北朝鮮の港湾を経由する「借港出海」により発展させる戦略が謳われて久しく、日本海沿岸の主要港湾都市を自認する新潟も予てから注視してきた地域である。また、延辺を含む東北区では、新潟県経済事務所による商談・展示会活動、環日本海経済研究所が関わる諸学術・経済交流など、持続的な取り組みが行われている。地域経済戦略上の選択と集中、および、先行する諸成果の厚みを勘案し、延辺州は本研究の対象として必要条件を満たしていると考えた。

1.2 交流協定校との良好な関係

本研究に協力を得た中国国立延辺大学は延辺州唯一の総合大学で、少数民族朝鮮族の民族大学でもある。本学にとって第8番目の交流協定校で、2010年以来、着実に人的交流を重ねている。本件滞在研究の趣旨に延辺大学外語学院日語科から理解を得、現地での宿舎、通訳・ガイド、交通手段手配などに関し、様々な便宜を図って頂くことができた。これが同地で本研究を実施し得た十分条件であった。

2 延辺州の概要

延辺朝鮮族自治州は中国東北区、吉林省東部、長白山地域にある。総面積は約4.27万km²で吉林省の約1/4を占める。西は吉林省蛟河市、北は黒竜江省に接し、東の中露国境線は246km、南の中朝国境線は522.2kmに及ぶ。州内国境に12箇所の対外開放口岸（内7箇所は北朝鮮向）が設置され、年間通貨能力610万t、通客能力290万人である。州最東端の琿春市防川から日本海まで15kmに過ぎず、国境河川である図們江経由の水路が日本海へ通じている。州内行政単位は、延吉、図們、敦化、琿春、龍井、和龍の6市、汪清、安図の2県、51鎮、13郷、2民族郷、22街道弁事処がある。

延辺朝鮮族自治州地方志編纂委員会（2012）によれば2010年現在の州総人口219.1万人中、非農業人口が144.7万人と62.2%を占め、人口自然増加率は0.126%である。人口の58.7%が漢族、36.6%が朝鮮族だが、国境沿いの5県市に限れば朝鮮族が55%を占めており、中国で最も多くの朝鮮族が居住する唯一の朝鮮族自治州となっている。他に、満族、回族¹、蒙古族、壮族、苗族、錫伯族、彝族、白族、土家族、蔵族などの少数民族がいる。

中温帯湿潤モンスーン気候に属し、明確な四季がある。夏季平均気温20℃、冬季平均気温-11℃、年間平均気温5℃前後であり、降水量、日照時間も農業に適した水準にある。

2.1 延辺州経済の動向

延辺州の主要経済指標は表1のとおりである。大豆、水稻、玉蜀黍を主要作物とする穀倉地帯であり、特に敦化市は高品質の小粒大豆の産地として知られるが、第一次産業は既に第二次産業に抜かれ、第三次産業が伸び盛りである。

表1. 延辺州の主要経済指標 (2016)

マクロ項目	統計項目	単位	2016年	伸び率(%)
GDP	GDP 総額	億元	915.1	7.6
	うち第一次産業	億元	69.2	2.3
	うち第二次産業	億元	445.7	6.4
	うち第三次産業	億元	400.2	10.1
	一人当たり GDP	元	43,003	8.2
工業	規模以上の工業付加価値額	億元	474.9	7.1
国内投資	固定資産投資総額	億元	903.1	10.1
消費	社会消費品小売総額	億元	531.2	10.4
	都市部住民一人当たり平均化処分所得	元	23,276	7.1
	農村部住民一人当たり平均化処分所得	元	9,675	7.9
物価	消費者物価指数	%	2.4	-
失業	失業率	%	2.1	-
貿易	貿易総額	億元	134.7	8.6
	うち輸出総額	億元	67.5	-8.2
	うち輸入総額	億元	67.2	33.0
対内 直接 投資	投資件数 (契約ベース)	件	32	-
	投資額 (契約ベース)	億元	-	-
	投資額 (実行ベース)	億元	1.8	8.5

(出所) 『延辺朝鮮族自治州概況』

2.2 観光産業の成長

好調な経済を反映し中国国内観光も活況を呈している。深刻な都市部、沿岸部の環境問題は、開発が遅れた奥地や辺境に緑色旅遊（エコツーリズム）の優位性を与え、延辺はその恩恵を被っている。延辺州の観光資源は独特の自然景観と民族文物にあり、様々な景勝地を抱く雄大な長白山と多種多様な朝鮮族風情が内外観光客を引き付けている。(4参照)

州政府も「生態文明建設を加速し、緑色発展の優勢を厚くする」を掲げて重点産業施策に「緑色工業の発展注力」、「現代農業の積極発展」と並んで「現代サービス業の発展加速」をあげ、観光業はインターネット経済を抑えて重点サービス業種の筆頭としている²。

2.3 観光業の発展状況

延辺州観光業の発展状況は表2のとおり。

延辺州の観光収入は、2015年時点で全第三次産業GDP363.4億元の約73.8%に及ぶ高水準にあり、特に国内観光収入は過去5年間で毎年25%超の高度成長していることが分る。中国的「生態文明、緑色発展」の立場からは、この延辺州観光産業の成長も、山林産業資源の利活用成果といえるだろう。

表2. 延辺州観光業の発展状況

類別	単位	2011	2012	2013	2014	2015
受入観光客合計	万人	858.1	1,015.4	1,167.7	1,361.2	1,595.7
・海外観光客	万人	45.0	54.2	58.2	62.8	65.4
・成長率	%	19.7	20.4	7.4	7.9	4.1
・国内観光客	万人	813.1	961.3	1,109.5	1,298.4	1,530.3
・成長率	%	18.4	18.2	15.4	17.0	17.9
観光収入合計	億元	109.1	138.2	172.8	216.2	268.4
・海外観光収入	億元	9.7	11.7	14.2	16.8	17.7
・成長率	%	26.0	21.5	21.4	18.3	5.4
・国内観光収入	億元	99.4	126.5	158.6	199.4	250.7
・成長率	%	29.0	27.2	25.4	25.7	25.7

(出所)「政府工作報告—2016年1月12日在延辺朝鮮族自治州第十四届人民代表大会第五次會議—」244の表から著者作成。

3 山林産業資源利用の動向

本稿では、山林産業という用語で山林がもたらす各種価値に基づく産業を指し、林業のみならず、山林の動植物の利用や自然が目的の観光旅行も含める。現代中国で生態産業と呼ぶ概念に近いが、生態産業概念には持続可能性という規範性が強く含まれている。

延辺州は中国有数の林業基地のひとつであり、日本貿易振興機構大連事務所(2017)によれば、森林面積は324.6万ha、森林被覆率は80.8%、活立木の貯蓄量は4.1億 m^3 に達する。山林の特産物資源も多く、野生経済植物は1,460余種に及ぶ。その内、朝鮮人參、靈芝、天麻、五味子など薬用植物が800余種、松茸、木耳など茸類が10種余りにのぼり、山葡萄、蕨、松の実、サンザシなど食用植物や野生果実が山林の至るところに自生する。また、長白山林区には550余種の野生動物が生息し、その内、テン、虎、彪、梅花鹿、カワウソ、黒熊など経済動物が250余種にのぼり、それらは鹿茸、鹿胎、熊胆、水獺胆など延辺特産の有名希少漢方薬種の原材料となる。これらの内、朝鮮人參、鹿茸、テンの毛皮は「東北三宝」と呼ばれ珍重されている。

3.1 野生動植物の採取禁止とその対応

但し、中国では近年の深刻な自然破壊や環境意識の高まりを受けて、野生動植物の採取が禁止されている。吉林新聞（2015）によれば、長白山区域で林区の核心区域をカバーしている長白山森林工業グループは、2015年3月27日に68年に及ぶ天然林の商業伐採事業を終了した。既に計画的な植林に基づく木材生産に移行しており、延辺地区の木製品産業が旺盛な国内需要に応えるため、ロシアからの原料材木輸入も活発化していると聞かれる。

動植物に関しては、経済性ある山林動植物の養殖／栽培が長年取り組まれており、事業として成立しているものも多い。2016年の滞在調査で延吉～安図～敦化間の山中を自動車で行ったところ、「熊園」「鹿園」「人參園」などの看板が随所にみられた。また、孫（2010）には林果45種、花卉24種、漢方薬種27種、山菜17種、食用茸14種、動物12種、鳥類10種、爬虫類／両生類3種、昆虫2種の栽培・養殖技術が掲載されており、中国での山林経済動植物に注がれた努力の厚みが伺われる。但し、同書掲載の全動植物の栽培／養殖技術が完成している訳ではない。例えば、延辺ガイド編纂委員会（2015）によれば、最上級の朝鮮人參は、畑で完全栽培した品（園參）でなく、野生種（野人參）から得られるとされ、畑で苗を育て山野に移植した品（移山參または林下參）が広く栽培されている。また、黒竜江林蛙は成体で6～7cm程の長白山区の固有種で、雌の卵管は蛤蟆油と称する高価な漢方薬種となる。しかし、孫（2010）は近縁種の中国林蛙の半人工養殖法のみを収録し、完全養殖技術は完成途上と記している。

完全養殖技術が未確立で経済価値が高い延辺州山林資源の一つが松茸である。孫（2010）は目下の松茸人工栽培は自然林中で行うとし、5種類の播種乃至育苗法を紹介している。延吉市中心部南側を東西に走る鉄道長図線延吉駅から程近い光華路には松茸、鹿茸、人參など数十軒の山林物産専門店が並んでいる（以下、松茸街と仮称）。そこで松茸の入手方法について聞き取り調査した³。専門店主2名の回答を総合すると、松茸街の専門業者は目当ての山林を管理する所轄の林業局に申請し、一定の権利金を支払い、一定期間、一定区画の山林で松茸を収穫する権利を保有している模様である。自然山林を上記などの半人工栽培技術を用いた圃場に利用するだけでなく、当該山林の野生松茸もまた採取して販売していると見られる。従って、現代中国の天然動植物は、当局の厳重な管理下で、権利者による採取利用が認められていると解すべきだろう。勿論、国指定など保護動植物は該当しない。

しかし、山林資源管理には違反者が絶えない。延辺朝鮮族自治州地方志編纂委員会（2012）によれば、延辺州森林公安局は2012年に管内に102派出所と2,223名の民警を配備し、各種森林事件4,754件、逮捕者18名を含む4,886名を摘発した。没収した木材1,359m³、同野生動物58頭、猟銃10丁、罟等1,699個に及ぶ。

4 観光業研究の成果

延辺州で観光業の重要性が高まるのを受け、延辺大学を中心に観光産業研究が行われている。その中で“十一五”期間“211工程”建設項目「朝韓日経済与東北亜地区国際合作的系列研究」の成果を中心に要約する。

4.1 金石柱主編 [2011] 『長白山地区旅游資源与可持続発展』

金(2011)では、延辺観光産業の中核となる長白山地区に焦点をあて、その概況と観光資源の網羅的評価、観光産業の動向と観光客の満足度調査を行い、生態系保全を念頭に持続可能性を論じた。自然背景(第1章)、社会経済的背景(第2章)、衛星画像に基づく土地利用評価(第3章)を記述した後、主要観光資源として4地区127箇所および朝鮮族民族風情9項目をリストアップした(第4章)。これらをFishbein, M(1963)ほかの消費者決定モデルを修正した長白山地区旅游資源評価モデルで数理分析し、特A~Cの4段階評価を行った。また、同モデルの評点を利用して、資源ポテンシャルと開発状況の比較を試みた。これらを踏まえて長白山地区全般の観光業発展状況を論じ(第5章)、2009年の観光客アンケート調査(n=583)結果を用いた行列式モデルにより旅客の満足度を分析した。そして、北部地区、西部地区、冬季旅客の3区分で比較を行い、各区分での満足度向上に向けた課題を指摘した。最後に、環境問題(第7章)とエコツーリズム振興施策(第8章)について、主として定性的な方法で簡明に述べている。

4.2 呂弼順ほか編 [2012] 『延辺地区旅游者行為特征研究』

呂ほか(2012)では、主に延辺州での国内旅行者フローに注目して、実地調査とアンケート調査、統計資料、地理学、観光学、マーケティング等の理論的方法、統計的手法による定量分析などにより研究し、同地区の国内向け市場開拓戦略を論じている。本書が対象とする延辺州は金(2011)の長白山地区とやや東に寄って重複しており、長白山西部地区に相当する白山市を含まず、平野の多い琿春市を含んでいる。分析の基礎となる4種の理論(旅客フロー理論、冰雪観光資源相関理論、民俗観光相関理論、観光空間構造相関理論)を概観した(第1章)後、延辺地区の観光資源と旅客フロー特性を統計調査に基づき論じ、次いで住所、前泊地、目的地の情報から、国内旅客の空間的分布と旅客フローの拡散方向と経路と、セグメント別特性を解明した(第2章)。更に、冰雪目当ての冬季旅客の特性と問題解決(第3章)を論じ、また、主要3民俗村住民に対するアンケート調査結果で民俗文化目当ての旅客満足度差異の説明を試みた(第4章)。最後に、地理的に俯瞰した長吉図(長春~吉林~図們)地区の一部として延辺州を改めて位置付け、「一軸三心」の大観光圏の建設を論じている(第5章)。一軸とは長春から図們に至る長吉高速道路であり、この軸上に長春、吉林、延吉の三心が存在し、それらから更に五大観光区(長吉都市発展区、蛟河敦化自然風景区、延龍図民族区、安図県長白山自然区、琿春辺境区)

が付帯する構造である。なお、一軸上には高速鉄道が2015年9月に開業し、長吉図広域遊覧がますます主流化して行くと考えられ、本書の先見的研究は意義あるものと思われる。

4.3 崔哲浩編 [2011] 『延辺旅游経済研究』

崔 (2011) は、延辺州の概況 (第1章) と観光資源 (第2章) について述べた後、10項目の論点で延辺観光経済の現状と展望／対策を多面的に論じている。第3章では、中国国家標準に則った延辺州観光資源の豊富さおよび品質評価が行われている。第4章では延辺州観光経済の人的および金額的統計 (1995～2010) に基づき市場開発戦略を論じた。第5章ではロシアと北朝鮮との国境地帯での観光事業の得失を論じ、国際機関の設立や通関／入国手続簡素化など辺境環境振興のための国際協力策を論じている。第6章では延吉、龍井、図們で2007年に行ったアンケート調査 (n=283) に基づき、2002年から州政府が毎年開催している朝鮮族民俗文化旅遊博覧会の周知状況と改善意見の調査結果を論じ、6項目の改善策を提案した。第7章では、延辺冬季観光の現状の得失を先行統計研究と主要スキー場のサーベイに基づき論じ、6項目の改善策を提案した。第8章では州内の旅行会社を2010年の統計に基づき分析・分類し、4つの問題点と4件の改善策を提案した。第9章では2010年の調査に基づき州内の星付ホテルをサーベイし、ホテルサービスの質および量と顧客満足度との多変量解析を行った。それに基づき5件の改善策を提案した。第10章では、観光業の人的資源の特性と、科学的人的資源管理について論じた後、2008年の統計に拠り延辺州観光業の人的資源を分析した。その結果、6点の問題を指摘すると共に11種の人材の需給動向を展望し、独自の延辺観光人的資源開発及び管理モデルに基づく戦略6件を提案した。第11章では2007年のデータに基づき延辺州の観光電子商取引の現状を論じたが定量的にはサイトのリストアップに留まり、定性的問題4点を指摘し、4件の発展戦略を提案した。第12章では観光土産品を4種類 (観光景观点型、事件依託型、名優特産型、名牌産品型) に分類して州内各地の土産品の特性を比較した。そして、州観光商品開発機構の取り組みに触れた後、6点の問題と7件の対策を指摘した。

なお、第2章は本書の約半分を占め、見所57箇所を含む長白山自然保護区など28件の山林名所、11件の河川湖水、希少動物を含む6件の動植物相、110件の名所旧跡、54件の建造物／観光施設、19件の特産品、14件の朝鮮族風俗／文物が解説されており、読み応えがある。

4.4 延辺ガイド編纂委員会 [2015] 『ようこそ延辺へ』

延辺ガイド編纂委員会 (2015) は州観光局が刊行した日本語版観光ガイドブックで、複数の延辺大学教員・研究者が参加して編纂された。134頁からなる本書は、州概況 (pp.1-9)、延辺特色の観光 (pp.10-11) から始まり、朝鮮族民俗文化 (pp.12-29)、満族

民俗文化 (pp.30-33)、長白山の風景 (pp.34-44) が続き、以後、州内5市2県毎に観光名所が解説され (pp.49-127)、最後に観光商品 (pp.128-132) について述べている。ハウツー本ではないが、記事内容は日本人向けに精選され、日本語文の水準も高く、良心的な観光案内書といえる。

5 商業活動の活況

延辺は民族自治州の故、延辺では普通話と並んで朝鮮語が公用語のため、至るところにハングルと簡体字が併記された文書や看板がある。ハングル能力を活かして韓国へ出稼ぎに出る延辺朝鮮族も多く、現金収入の点で周辺地域や他の民族より豊かな州という定評がある。その反映で、本研究で滞在調査を行った延辺の州都延吉市は商業活動が活発である。

市内商業集積の中から、定点観測的に観察した3箇所の状況を以下に述べる。

5.1 朝市

延吉市内を東西に流れるプルハトン河へ市中心部で北から流れ込む支流の烟集河東岸一帯で毎朝早朝から午前中にかけて早市と呼ばれる朝市が開催されている。人民路と健康路に挟まれた東岸の北半分数百mにわたって地元商人、行商人、周辺地域の農民などが商品を持ち寄って市が立つ。市のスペースの一部はコンクリートの屋根が設置され、外食厨房、惣菜店、食肉店を中心に古株と思しき業者が入居しているが、数多くの売り手が道路脇や川べりに台やシートを広げて商品を陳列している。取扱品目は生鮮食品、乾物、惣菜、衣料品、日用雑貨全般に及び、日常的買い物は殆ど間に合うといえる。長白山特産の山菜、果実、朝鮮人参や霊芝を含む漢方薬種なども豊富である。海産物は冷凍品が多く、凍ったまま売られている。過年度の聞き取り調査では北朝鮮からの冷凍海産物があったが、2017年の調査では、大連からの品と聞かれた。鯰、泥鰌など淡水魚類や食用にする蛙類は活きた状態でも販売されている。庶民的な価格で買い易く、値段交渉も可能だが、中古品や偽ブランド品と思しき商品もあった。定点観測の視点では、何時行っても大繁盛の市である。

5.2 百貨店と防空商場

延吉市内北岸中心部で人民路と局子街、光明街が交差する、百利百貨店と防空商場を中心にした商業集積がある。百利百貨店は日本の中堅都市に有りがちなデパートを上回る規模と品揃えが認められ、若者や家族連れで賑わっている。欧米ブランドと韓国商品が豊富だがユニクロもテナントに入って健闘している。防空商場は市中心部の地下に冷戦時代に構築された大規模防空壕を転用した商業施設で、衣料品、布団など繊維製品と雑貨類を中心に多数の小商店が入居しており、日常的買い物客が絶えない。但し、商場内は低い天井

まで商品が山積みになれ、売り場は迷路のように入り組み、階段や防火扉が不規則に点在するなど、構造的には外来者に親切とはいえない。

定点観測の視点では、こちらも過年度と変らぬ賑わいをみせていたといえる。

5.3 延吉万達広場

大連万達集団は1988年に王健林により大連で創業され、不動産業、ホテル業、流通業、映画業で成功して本社を北京に移し、2016年頃にコングロマリットとして頂点を迎えた。その2016年9月に、同集団の基幹事業の一つである大型商業複合施設の延吉万達広場が、計画的な開発が進む市東部のプルハトン河北岸に開店した。万達集団直営シネマコンプレックスを設置する地上4階地下1階の施設で、日本の地方都市のイオンモールなどに匹敵する規模といえた。市中心部から、道路状況にもよるが車で10分位かかるものの、地上と地下に広い駐車場を確保し、日本的基準なら郊外型店として問題がない立地と思われた。何より店舗まで徒歩圏内の周辺で大規模な高層マンション群の開発が進みつつあり、将来的には現市街よりも周辺マンションや近郊農村部の住民の来店が主になると考えられた。店内には欧米系、中国系のブランドショップが並び、VRを導入した家具店や幼児英語教室など新機軸の業態も散見され、飲食店類も充実していた。日系ブランド、日本企業店舗の入居は確認できなかったが、たこ焼き店と寿司屋は繁盛しており、品質も悪くないと見受けられた。同店は開業と同時に韓国ブランドエリアを開店させ差別化を図った。モール1F中央部に面した1ブロックに5～6テナント分のエリアを確保し、全てを韓国ブランド店で埋めたのである。小金持ちの韓国出稼ぎ者と韓国に憧れる朝鮮族を当て込んだ戦略と考えられたが、的外れと批判する根拠もなく、やってみる価値がある企画と思われた。2016年9月の開業直後に同店を視察した際は、店内何処も大賑わいを見せていた。

しかし、2017年9月に定点観測的に再訪したところ、同店の予期せぬ寂れ様に直面した。低層階のマック、スタバなどファーストフード店や欧米系ブランドショップは余り変化がなかった。しかし、最上階の飲食店は人気明暗がはっきり分かれ、既に複数の閉店や交代が顕在化し、地階の食品売り場も品揃えが明らかに劣化し、特に活魚売り場はテナントが撤退し「招租」（借り手求む）の黄色い張り紙のみが目立っていた。更に、衰れを留めたのは韓国ブランドエリアで、2テナントを残して全て撤退し、内1店舗は世界各地からの輸入食品店に模様替えしていた。韓国ブランド品は延吉の商業施設に多数あり、延吉市民の厳しい選別眼に、同店の韓国ブランドエリアは耐えなかったと思われる。韓国ブランドというだけでは繋ぎ止められない程度には、延吉の消費者は成熟してきたといえる。

なお、万達集団は2017年に入りグループ全体の経営悪化が表面化し、未だ解決の道筋が見えない。延吉万達広場の建て直しも当面期待し難い。

また、延大関係者に同店評を求めたところ、市内から遠いとの不評が聞かれた。自家用

車で大量に買出しに行くことは延吉では一般的でなく、徒歩や交通機関で普通に行ける圏内で日常的買い物を済ます市民が大多数を占めるといえる。同店周辺のマンション開発は未だ途上であり、更に投資目的の購入者が多く、必ずしも周辺人口増加に繋がっていないと見られる。朝市や防空商場の変らぬ盛況に照らせば首肯できる意見である。

以上のように延吉には多様な商業集積が認められ、韓国との交流で磨かれた市民の選別眼は侮れない。これらは、延吉の山林資源の優位性を第二次産業、第三次産業で発揮させられる優秀な人材の育成と確保に資する都市環境の整備上、良い材料かもしれない。

6 産業政策と創業孵化基地

6.1 延吉での海外学者帰国創業ウィーク（2016年9月中旬）

中国でも創業支援が産業政策として打ち出され、それに呼応した活動が延吉州にもある。吉林新聞（2016）によれば、2001年から同年まで共産党系青年団体と欧米留学者団体主催の海外学者帰国創業週活動（ウィーク）が毎年開催され、多くの党／国家要人が出席するこの活動を通じて、数万人に達する中国人海外留学者を帰国視察と創業就職に誘導した。同年に全国で予定された計6回中第3回目の週活動が2016年9月9日から延吉州人民政府、共青团吉林省委などの共催で延吉にて開催された。延吉での開会式には、欧米、露、日、シンガポールなどの海外学者らと、留学経験のある若手企業家約50人が参加した。出席した共青团省委書記程龍、州党委常務委員洪慶など要人が祝辞を述べ、中国科学院生物物理研究所所長徐涛および若手企業家郭焱が“開発開放辺境、革新合力延吉”“帰国革新創業”等をテーマに国家政策、帰国自主創業などについてそれぞれ基調講演を行った。本ウィーク中に、延吉州と海外学者の経済貿易交流懇談会、延吉・琿春両工業団地の投資創業環境視察、同地有力企業との提携斡旋など多様な行事が行われた模様である。

上記の基調講演は、北京中関村などで成功例がある、海外留学者が帰国し創業する所謂「海亀族」モデルを全国的に、特に改革開放の遅れた内陸部に拡張する意図を示している。但し、近年の中国創業支援政策には、別の産業戦略的意志が顕在化してきた。

6.2 「中国製造2025」に基づく中小企業／創業支援観

国立研究開発法人科学技術振興機構研究開発戦略センター海外動向ユニット（2015）によれば、「中国製造2025」は2015年5月に中国国務院通達として公表された、2025年までの10年間の中国政府の製造業ロードマップである。中国版インダストリー4.0戦略として世界的な注目を集めた。朗逸編集部編（2017）によれば、同通達公布から2周年目の2017年5月17日の国務院常務会に於ける李克強総理の発言が以下のように伝えられている。

「大中小企業が互いに協調し発展（融通発展）する点に中国の優位性がある。」「製造業

のモデルチェンジとバージョンアップを促進し、必ずこの優勢をしっかりと掴み取れ。』『『中国製造2025』が示す体制の創建のため、大中小企業を同区域内に集積させ協調して発展するよう計らい、各個企業が調整して国家的発展に連携する一個の環境、一種の雰囲気を形成することで、グローバル市場で優勢な競争力を発揮するに至る施策を緊急に推進せよ。』

この会議で大中小企業融通発展政策は積極的に支持され、サービス業と製造業の有機的結合、製造・通信・ソフトウェア等異業種間協力の奨励、共同研究・製造ネットワークの発展、サービス型製造モデル等が承認された。更に、各種の「中国製造2025」モデル地区を建設し政策や制度の革新のための先行実験を実施して、イノベーティブな雰囲気のインテリジェント製造業の産業集積を形成し、新たな成長地域を創造する方針を決めたという。

上記の李克強総理常務会発言は「中国製造2025」に盛られた内容を超えるものではなく、同進行状況に関する認識を示し、当該時点の重点施策について議論したものと理解できる。

なお、上記発言記事和訳要約の出所『朗逸』誌は延吉市の高級タウン誌であり、高級マンションやブランド専門店などの記事が主力の刊行物で、本来は同市民の消費生活に係る情報収集のため閲覧したものである。そうした富裕市民向雑誌の目玉記事の一つを李総理の産業政策発言が飾ることは中国のお国柄であるが、「大中小企業を同区域内に集積させ協調して発展するよう計らい、各個企業が調整して国家的発展に連携する一個の環境、一種の雰囲気を形成する」ために資する宣伝施策と解釈できる。延吉の富裕市民が実際に創業したり、起業家に出資したりするかはともかく、政府の強い意志は伝わると思われる。

6.3 延吉市衆志中小企業創業孵化基地

延吉市衆志中小企業創業孵化基地有限公司（以下、同基地）は、延吉市党委員会と市政府の支持の下、延吉市人力資源および社会保障局の密接な指導を受けて2016年6月に設立された公益性インキュベーション施設である。

同基地は、松茸専門店などが立ち並ぶ光華路（3.1参照）から路地を入った一辺30メートル内外の四角い駐車場兼広場を平屋（一部二階建）のオフィス棟で四方から取り囲んで配置され、支援機関等を含め少なくとも13社の入居が確認できた（2017/9/15現在）。設立前は延辺松茸特産集散中心と呼ばれる商業集積だった。

同基地内の掲示資料は、その特色として以下の3点を掲げている。

①資源集散センター

延吉市のエコ産業資源を十分に利用し、優秀な農林特産企業と協力して特産品資源、土木インフラ資源、人材資源の共同利活用を実現する。同時に電子商取引画像撮影、商品デザイン、電子商取引広告宣伝、ノード建設、ネットワーク拡張、電子商取引顧客サービ

スなどの周辺サービス業務を展開し、その制作を基地内で行う。入居企業や提携先企業は優先的にこれら周辺サービスを利用でき、低コストで高効率な経営に貢献する。

②電子商取引事業センター

電子商取引企業のオペレーション部門を誘致し同基地への入居を図り、地元青年の就職を促進し、地元の電子商取引人材の育成し、入居企業が提供する学習と交流の活動を開発して、同基地周辺地区のバランスの取れた発展を図る。

③スタートアップ&インキュベーションセンター

インキュベーション方式を利用して青年インターネット起業家を支援し、優秀な若者と学卒者を引き付けて入居させ、地元の若者との良好な学習交流を更に促進する。

6.3.1 同基地インキュベーションサービスの特徴

同基地は「助創業者起歩、為創業者創造条件、伴創業者成長」を趣旨として各種創業支援サービスを提供している。講師を招き入居企業に対し無料で事業計画、開業指導、登記事務、法律相談、融資契約、人材紹介、経営事務などを支援し、また、会計士、弁護士、弁理士、投資会社、経営コンサルタントの斡旋を行い、創業支援全般をカバーする総合プラットフォームを標榜している。同総合プラットフォーム（以下、PF）は、「一条龍」創業孵化PF、「一站式」人事労務支援PF、「一体化」創業実地訓練PF、「一网通」通信PFの、4個のサブPFから成ることを特色とする。

「一条龍」PFでは、事業構想相談に始まり、創業能力試験、教育訓練、用地選定、資金確保、経費見積、市場検証、専門家指導、市場開拓、展示・発表等の一連の支援を一貫して行う。「一站式」PFでは、創業者にキャリアプランや就業規則、人事代行、記帳代理他、各種相談など人事労務サービスをワンストップで提供する。「一体化」PFでは、事業計画、産品選定、ネットショップ開店、リソースアクセス、通販運営、経営管理技能養成などを一体のサービスとして提供する。「一网通」PFでは情報ネットワークPFを構築し、就業機会へのアクセス、募集動画配信などのネットワーク機能を提供することで、大学生とスタートアップ企業間の就職情報の橋渡しを行うとしている。

こうしたプラットフォーム志向は、同基地の建設原則に由来する（6.3.2参照）。

6.3.2 同基地の建設原則

同基地設立にあたり策定された、以下の3件の建設原則が公表されている。

①サービスモデルイノベーション

O2O（Online to Offline）および「1+N」モデルを採用し、オフラインに多数のノードを設け、オンラインには多数のプラットフォームを設け、オンラインとオフラインを相

互に融合して都市と郷村を融合させ、リアルとネットワークを一体運営することで低コスト、高効率の創業環境を形成する。

②フルラインサービス

電子商取引の訓練、オンライン広告、オフライン交流、物流施設等の需要、創業定期勉強会、サロン、実習、ロードショー、展示会などの活動をパッケージで提供し、若者達のインターネットへの意識を強化し、インターネット+創業ブランドを造りだす。

③起業による雇用創造

都市と郷村の青年起業家のデモンストレーションを電子商取引に焦点を当てて推進し、全民的なインターネット+創業の雰囲気を作りだし、郷村の若者が更に多く創業して就業機会を創出する作用を発揮させる。

原則①に謳われたO2Oは、Duggan (2015) によれば2014年前後から注目されたオンラインビジネスのマーケティングコンセプトで、中国アリババグループの戦略指針としても知られる。原則②のプラットフォームによる囲い込みの発想共々、「中国製造2025」策定時に有効性が認められていたネットビジネス諸指針を取り入れたものと分る。

既存の松茸専門店街近傍に同基地を建設したことは、「大中小企業を同区域内に集積させ協調して発展するよう計らい」「国家的発展に連携する一個の環境、一種の雰囲気を形成する」方針を履行したものといえる。

6.3.3 入居対象者と入居プロセス・要求事項

同基地への入居対象者には、以下の6タイプがある。

- (1) 同基地に営業部門を設立する意向がある既存企業
- (2) 電子商取引リソースの供給事業者および製造業者
- (3) 全国各大学の在学生または卒業生
- (4) 電子商取引或いはネットワーク技術サービス等企業またはその事業室
- (5) インターネット、或いはネットワークサービス分野のベンチャーキャピタル会社、又は個人投資家
- (6) ビジネスパークでのサービス提供経験のある小回りの利く物流会社。

入居希望の企業または個人は、電話・インターネット・直接訪問により同基地に申込み。審査を経て入居条件に合致すると判断された者は予約時間に同基地担当者と面談し、希望すれば空きオフィスを実査して入居の意向を確定する。基地側は希望者が提供した詳細資料の審査を進め、条件に適する企業或いは個人には速やかに入居予約手続きを行う。

入居希望企業或いは個人は、同基地とのインキュベーション入居契約書の締結、入居予約金の納入など、正式な入居手続きを行う。入居した企業には、以下の6項目が要求される。

- (1) 基地での業務はインキュベーション方針に合致する、電子商取引関係業務であること。
- (2) 基地の規定を尊重し、入居手続に従い、消防・衛生・安全など基地管理制度を遵守し、現地管理の各部門の業務に協力して基地の完成を図ること。
- (3) 入居企業は商業活動内容の合法性を保証しなければならない、仮初にもニセモノ粗悪商品、権利侵害商品、無保証製品など違法な経営に従事してはならない。
- (4) 地区で実施される月次、四半期次、年次の営業統計調査には積極的に協力し、基地が組織する企業交流や技術講座等の活動にも積極的に参加すること。
- (5) 地元青年の就業、或いは大学生起業家の入居に積極的に対応すること。例えば事業所を改装する場合には、施工前に基地の審査を受け、設計案の承認を受けなければならない。
- (6) 上級機関の規定により、入居企業或いは個人は、必ず3ヶ月以内に当地での商業登録（有限公司、個人独資企業）或いは転入手続を行わなければならない。

6.3.4 同基地の入居企業

確認できた同基地の入居企業13社の内訳は以下のとおり。

- (1) 山林特産品販売業者 9社
9社全てが松茸を看板に掲げ、内1社が朝鮮人参を、別の1社が蛤蟆油を併記していた。
- (2) 商務サービス 2社
1社は貿易サービス、もう1社は詳細不詳の商務サービス事業者である。
- (3) 金融機関 1社
農業系の信用保証会社の延辺三農信用担保有限公司が同基地入口付近に入居していた。
- (4) その他 1社

既存米穀生産事業者の吉林衆鑫綠色米業集団のショールーム兼アンテナショップが入居していた。同社は北朝鮮と境を接する延辺州和龍市の平崗に大規模な米穀生産基地を持ち、王善軍（2017）によれば、中国国内で銘柄米の生産者として高く評価されている。

基地側の入居対象者（6.3.3参照）と比較すると、大半は山林特産品販売業者の事業所であり、(3) 全国各大学の在学生または卒業生が創業した企業が含まれるかどうかは確認できなかった。また、それら入居企業の電子商取引による事業展開の状況も詳らかでない。そして、(2) 電子商取引リソースの供給事業者および製造業者、(4) 電子商取引或いはネットワーク技術サービス等企業またはその事業室の入居はないと見られ、(5) イ

ンターネット、或いはネットワークサービス分野のベンチャーキャピタル会社、又は個人投資家の代りに信用保証会社が入居したといえる。

こうした地域特産品と電子商取引を新結合して産業集積を形成し、後発地域での学生起業の促進と若者の就業機会の創出を図る試みは、内外に類例が乏しく注目に値すると思われるが、今回の視察の限られた外見的観察による限り、当初の目論見どおりに進捗しているとは思われない。しかし、「中国製造2025」の本質的な意図は、大中小企業の連携と、起業やイノベーションを是とする雰囲気創りにあり、地場産業や周辺事業者へのインパクト、並びに学生起業や若年労働者の定着の動向を検討せずに、結論することは出来ない。

7 結び

本稿は延辺大学の協力の下に行われた著者個人研究をまとめたもので、今後、同校などとの共同研究テーマの設定や、同地からの留学生の研究指導に資すると考えられる成果を列記した。延辺州は多くの現代日本人にとって不案内な辺境であるが、そこでさえ、環境に優しい農業／工業、エコツーリズム、小売の異業態競争、起業による地域経済振興など、経営学研究者の耳に馴染みがあるコンセプトに基づいて経済／経営活動が展開している。グローバル経済は直裁的な財貨やサービスの交換に留まらず、ビジネス思想も並行して交流するのである。延辺州と我々が共通の目標や価値を持てる日も決して遠くないと考える。

なお、本稿に係る短期滞在研究には2016年度事業創造大学院大学特別奨励研究費の支援を得た。また、延辺大学外国語学院副院長全永男教授並びに同日語系李美花副教授には、延吉滞在中にたいへんお世話になった。末筆ながら、関係各位に感謝申し上げます。

【注】

- ¹ 唐～元時代の、西域からのムスリム移民の子孫や、そうした影響で古くからイスラム化した中国人。人種的には漢族と変らないが、イスラムに由来する信仰、風俗、習慣を保持している。
- ² 文献13, pp.3-10.
- ³ 延吉市光華路松茸街での張徳啓氏（延吉市吉恵経貿有限公司）と楊健氏（長福松茸）に対する聞き取り調査。通訳は事業創造大学院大学事業創造研究科金群蓮、桂鶴林。2016年9月8日。

【参考文献】

- 1 延辺ガイド編纂委員会 [2015] 『ようこそ延辺へ』, 延辺朝鮮族自治州観光局。
- 2 延辺朝鮮族自治州地方志編纂委員会 [2012] 『延辺年鑑 (2012)』, 吉林人民出版社。
- 3 王善軍編 [2017] 「揭秘美味延邊大米背後的種植秘密」『新華網News』, http://big5.xinhua.net.com/gate/big5/www.jl.xinhuanet.com/2017-09/24/c_1121710738.htm, 2018/2/27最終確認。
- 4 吉林新聞 [2015] 「《長白林海》歴史の見解受け天然林伐採全面ストップ!」『朝鮮族ネット』, <http://www.searchnavi.com/~hp/chosenzoku/news14/150330.htm>, 2018/2/27最終確認。

- 5 吉林新聞 [2016] 「海外学者帰国創業主延辺行き活動をスタート」『朝鮮族ネット』, <http://www.searchnavi.com/~hp/chosenzoku/news15/160909-2.htm>, 2018/2/27最終確認。
- 6 吉林省地図集編纂委員会 [2009] 『吉林省地図集』, 中国地図出版社。
- 7 金石柱主編 [2011] 『長白山地区旅游资源与可持續發展』, 延辺大学出版社。
- 8 国立研究開発法人 科学技術振興機構 研究開発戦略センター 海外動向ユニット 「『中国製造2025』の公布に関する国务院の通知の全訳」 2015年7月25日, <https://www.jst.go.jp/crds/pdf/2015/FU/CN20150725.pdf>, 2017/2/27最終確認。
- 9 高瑋・盛連喜主編 [2002] 『中国長白山動物』, 延辺人民出版社・北京科学技術出版社。
- 10 崔哲浩編 [2011] 『延辺旅游經濟研究』, 延辺大学出版社。
- 11 孫興志編 [2010] 『長白山林業産業实用技術』, 中国林業出版社。
- 12 日本貿易振興機構大連事務所 [2017] 『延辺朝鮮族自治州概況』, 日本貿易振興機構。
- 13 李景浩 [2016] 「政府工作報告 —2016年1月12日在延辺朝鮮族自治州第十四届人民代表大会第五次會議—」, 延辺統計局編 『延辺統計年鑑2016』, 中国国際図書出版社。
- 14 李徳潤編 [2012] 『延辺朝鮮族自治州地名通覽』, 吉林大学出版社。
- 15 呂弼順, 賈琦, 李春景編 [2012] 『延辺地区旅游者行為特征研究』, 延辺大学出版社。
- 16 朗逸編集部編 [2017] 「時政快通 李克強談 MADE IN CHINA 中国製造2025 大中小企業要融通發展」『LAVIDA 朗逸』, 2017/06号, pp.10-11。
- 17 Duggan, Wayne [2015] “What does O2O mean for the future of e-commerce?” Yahoo Finance. <https://finance.yahoo.com/news/does-o2o-mean-future-e-233503739.html>, 2018/2/27最終確認。
- 18 Fishbein, Martin [1963] “An investigation of the relationships between beliefs about an object and the attitude toward that object.” *Human Relations*, 16:233-9.